

TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第36号 2017年12月1日発行



7月22日 シャルマホールディングスさんのカレー炊き出し

2017年総会号

巻頭言	1	さらば「うなどこ」の主	8
ご無沙汰して申し訳ありません。		追悼 上野さん	
会計報告	3	生きてく苦勞・生きてく喜び	13
総会報告 その1		べてぶくろ木村純一さんイ死ユ	
炊き出し	4	寄付御礼	18
ほっと友の会	6		
夜回り	7		

巻頭言 ご無沙汰して申し訳ありません

前の会報誌を出したのが2月でしたから、なんと10ヶ月ぶりの第36号です。年3回の発行を目指していたのですが、日々の活動に追われて・・・(飲み過ぎて)・・・みなさまへの報告が遅れたこと、お詫び申し上げます。

1, 最近の池袋「ホームレス」事情

・炊き出しに並ぶ人が少し減りました。今年は平均200人を切りそうです。オリンピックに備えて仕事が増えていることと、私たちの活動もあって路上生活者が徐々に減ってきたことが背景にあると思われます。ただし、オリンピック後が怖いという噂も・・・
・夜回りで出会う池袋駅周辺の路上生活者は70~80人で、大きな減少は見られません。豊島区内をくまなく歩いたARCHの「東京ストリートカウント」(8月4日の深夜の調査)では、108人の路上生活者に会いました。今も100人前後の人が池袋で野宿していると考えられます。

2, シェルター・・・順調に稼働中

・路上生活者が生活保護を申請すると、東京ではほとんどの場合、数ヶ月は集団生活の寮で暮らすこと求められます。そんな環境では耐えられず、逃げ出して各地を転々とする方が今の路上生活者の中にたくさんいらっしゃいます。そのために私たちはアパート(借り主はハウジングファースト東京プロジェクトの住宅部門を担当する「つくろい東京ファンド」)を借りています。現在9室。3室は障がいや高齢のためにアパートを借りることが難しい方に、期限なしで住んで頂いています。残る6室は、主に池袋で長期にわたる路上生活をされている方が、自分のアパートを確保するまでの4ヶ月の期限付きシェルターとして利用して頂いています。4月から12人の方が利用され、5人がご自分のアパートへ、5人が利用中、2人が残念ながら失踪されました。つい先日も、鬱を抱えて各地の施設を転々としてこられた60代の男性がご自分のアパートに入られ、その後にやはり障がいをかかえた40代の男性が入られました。自分らしい生活が営めるよう、これからも支援していきます。

3, 寄付・・・資金の寄付は苦戦中

物資の寄付は4月から10月まで約120件を頂きました。ありがとうございます。件数は昨年とほぼ同じです。衣類は、6月頃に夏物が足りなくて困った時期がありましたが、寒くなってからは順調に集まって、皆さんに配るのに必要量を確保できています。

食品は、お米がありがたいことに在庫が潤沢ですが、缶詰やラーメンなどの保存食は不足気味です。

資金については、4月から10月まで約140件、合計約120万円の寄付を頂きました。ありがとうございます。ただし、今年目標金額500万円には遠く及ばない現状です。昨年と比べても件数で約40件金額で約40万円の減少です。どうぞご支援をお願いします。

4, 私事ですが

この4月に、30年勤めた中学校を退職し、TENOHASIの活動に専念することにしました。

今年55歳ですから、現役でいられるのもあと10年。その10年で何をしたら悔いの残らない人生になるかな、と思ったとき、答えは出ました。TENOHASIにお金がないのでしばらくは無給ですが、その分、自由に動けます。これからの福祉をちょこっとでも変えるために、じたばたして行きたいと思いますので、ご支援ください。

* Facebookで活動報告しています。「清野賢司」で検索してください。 事務局長 清野賢司



炊き出しの生活相談



池袋の路上にて



マカロニの中心メンバー



支援住宅の契約



日中活動 シルクスクリーン



自分のアパートへ 引っ越し



日中活動 大人食堂



自分らしい暮らしへ

皆さまのおかげで活動を継続できます。会計報告

みなさま、いつもご支援ありがとうございます。

2016年度、物資は食糧・衣料共に順調に集まりました。ありがとうございます。

財政面では、収入が皆さまからの寄付金が約500万円、庭野平和財団からの助成金が30

2016年 予算と決算 (概数)

	予算	決算
収入	820万円	795万円
個人の寄付	520万円	495万円
支出	1010万円	1057万円
差引	-190万円	-261万円

0万円の合計約800万円でした。

収入はほぼ期待通りの寄付をいただくことができました。ありがとうございます。

支出は、新設のアパートタイプのシェルターの家賃を一部負担した金額がかさんだこと、業務委託費がかさんだことなどから予算よりもプラス約50万円となりました。赤字は約260万円ですが繰越金がありますので、当面は活動を継続できます。

今年度の予算は左の通りです。

収入	800万円
*個人からの寄付	500万円
*庭野平和財団助成金	300万円
支出	900万円
差引	マイナス100万円

来年度は庭野平和財団からの助成金がなくなるので、再度の財政危機を迎えることが予想されます。どうぞご支援よろしくお願ひします。

特定非営利活動法人TENOHASI 2016年度会計報告

前期繰越		12,746,703
収入	寄付金	4,952,859
	庭野平和財団助成金	3,000,000
	合計	7,952,859
支出	炊き出し	981,155
	生活支援	2,664,277
	シェルター家賃	1,035,000
	シェルター光熱水通信費	168,325
	業務委託費(人件費)	4,262,302
	事務費	1,460,370
	合計	10,571,429
単年度		-2,618,570
次期繰越		10,128,133



特定非営利活動法人TENOHASI



2017年総会報告 その1

2017.6.3



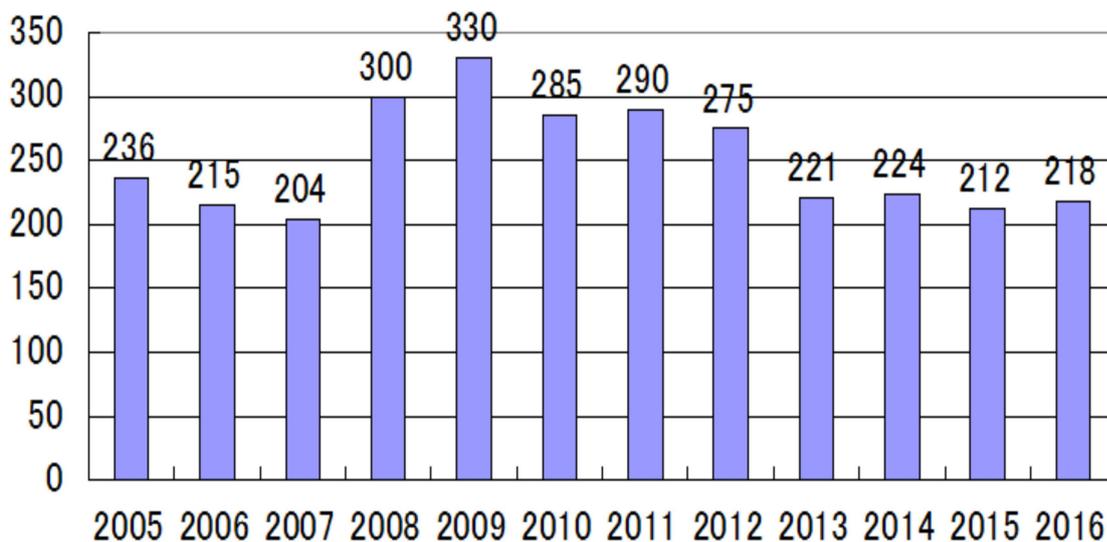
炊き出しに並んだ人数の2016年度平均は、前年より約6人増えて218人でした。

2013年にリーマンショック前の水準に落ち着きましたが、その後はほぼ横ばいです。

厚労省の調査では路上生活者の数は年々順調に減っている事になっているのですが、炊き出しでは劇的な減少がないのが残念です。

毎週の夜回りで出会う路上生活者も70〜90人でこちらも大きな減少がありません。人数がせめて半減して、一人一人とじっくり話す余裕を持てる日を実現したいです。

炊き出しに並ばれた人数の推移2016



炊き出し「公園班」

最近の様子

公園ではまず16時半から衣類を配布します。シートに広げた衣類をまず一人一点ずつ選んでもらい、もっと欲しい人は並び直してもらおうという方法で配布します。布団・毛布・靴や石鹸やカミソリなどもあります。衣類を求める人は毎回50〜80人程度で、特に季節の変わり目が増えます。冬物衣類は毎回たくさんの方が集まるのですが、春夏物は不足気味で、あつという間になくなってしまいます。また、アルミ缶回収や炊き出し廻りで靴が穴だらけの方も多く、靴は最大の人気品です。

同じく16時半からドリンクも配ります。季節にあわせて冬はホットコーヒー、夏はアイスコーヒーかスポーツドリンクを30リットル作り、くつろぎの時間を作っています。

17時になると、その日初めて参加したボランティアの皆さんに活動の説明をする「公園ツアー」。

そして、ご飯とスープを詰め

たコンテナが届いたら配食前のミーティングです。作業内容を説明し、ご飯をよそう人、手渡しする人などの分担を決めます。毎回10人以上の方が初参加なので、手渡し係など当事者と直接ふれあう作業をして貰うようにしています。

18時から配食です。通常はご飯に肉と野菜を煮込んだ汁かけた「ぶっかけ飯」を配ります。冬でも暖かく、野菜たっぷりなのが私たちの炊き出しのコンセプト。

大塚モスクさんとインドの貿易会社シャルマホールディングスさんのカレー炊き出しもあり、喜ばれています。

〈ボランティア〉

調理・公園・医療生活相談・鍼灸マッサージ・ほっと友の会などすべてのセクションのボランティア数の1回当たり平均77名で、昨年とほぼ同じでした。そのうち初めての方は1回当たり平均18名、年間では424人に上りました。

これほどたくさんの方々の参加を得て炊き出しが行えていることに感謝です。

炊き出しの目的

炊き出しは毎回平均70人以上のボランティアと200人以上の当事者が集まる大きなイベントですが、その目的は「ただ食事を提供する」のではなく、「困っている人に出会い、信頼関係を作り、支援の方策を探る」ことであると思います。

TENOHASHIは、「ホームレス生活を続ける」ことを支援するよりは「ホームレス生活を脱する」ことを支援する団体です。信頼関係がなければ支援もありません。貧困ビジネスが横行する中、信頼関係をつくるには地道に支援の実績を積み重ねていくしかありません。

当事者との関係

炊き出しのご飯を渡すとき、ボランティアは笑顔で「お待ちせしました」「どうぞ」等と声をかけるようにお願いしています。

ある時、学生さんから「お金をもらわないのに、どうしてお店のお客さんに対する時みたいに接するんですか」と聞かれたことがあります。

ここに集まっているのは、社会から排除されて路上生活になつた方や、生活保護を受けて路上からは脱したけれど、厳しいパッシングにさらされている方々です。「貧困は自己責任」と考える人が多い日本ではどこに行っても厳しい目で見られます。

でも、私たちは「この厳しい日本社会で最低の境遇に追い込まれても生きぬいてこられた」ことに敬意をもち、「これから共に生きていきましよう」という共感を込めて、「お待ちせしました」「どうぞ」と声をかけます。

「支援する↓支援される」という上下関係ではなく、「共にこの社会を生きやすいものにしていこう」という点で私たちは平等であると考えています。

(清野賢司)

ほつと友の会 (お茶会)

★活動

毎月第4土曜の炊き出しの日に、公園内にダンボールを敷いて、みんなでお茶や手作りのお茶菓子を食べた後、輪になって語り合い、聴き合う活動です。昨年度は、1回平均約10人が参加しました。

★感謝

・雨の日も風の日も一度も欠かさず、12年目を終えることができました。ご支援や荷物運び、テントの設営など、みなさまのご理解とご協力で会を無事に続けることができました。誠にありがとうございました。

★昨年度の成果と課題

・先日、以前にほつと友の会に参加されていた常連の方（現在は遠くにお住まい）が、8年半ぶりに参加されました。「ほつと友で過ごした時間に勇気づけられた」とよく話してくださる方で、今回の参加の後に「ほつ友はこのまま変わらずに続けてくださいね。」「久しぶりに素晴

らしい充実した時間が過ごせました。」とおっしゃっていました。

変わらずに楽しい雰囲気と活動を維持できている点は成果だと思います。以前とは、場所もメンバーも変わっていますが、どのような人とも、その時、そこでの時間を大切に過ごす、ということをごこれからも続けたいと思います。

・昨年度は、参加人数が少ない月が目立ちました。開始が衣類配布と重なること、すでに輪ができていくように感じるなど、新しい方が入りにくいという課題があります。

長く炊きだしの列に並び、ほつ友がお茶会をやっていることは知っていても、いざ、参加されるまでには時間がかかります。そうした方が昨年度も5、6名いらつしやいました。ある方は、「また来ますよ。普段、話す友だちなんていないから。楽しいです。」と話されていました。今は「毎月、楽しみです。」と別れ際に握手をします。

参加しやすくする工夫が必要です。

・常連となった方は、ほつ友の時間をとても大切にしてください。



り、長い期間、参加されていません。時には事情があつて来られない場合もありますが、ほつ友に休みはないとご存知ですので、『いつでも第4土曜日には会える』と信頼して、長く来てくださっています。私たちも待ち続けていますし、参加メンバーも「誰々さん来ないね」とほつ友の仲間に心を寄せています。

共有できる仲間は得がたいです。ほつ友にはそのような方と活動できる喜びがあります。

★今年度の方針
今年も、ほつと友の会が参加される方の心の居場所の一つとなつて、ご自身が良いと思える人生を送られることへの応援を、みなさんで互いにできればと願っています。（稲見得則）

夜回り

★パン&おにぎり作り

毎週水曜日の夜回りで配るパンは「あさやけベーカリー」でもと路上生活のスタッフを中心に作っています。

おにぎりは、主に18時半よりマカロニで作っています。非常食のアルファ米をお湯で戻し、1つずつ握ってラップ巻きをし、味や添え物を変えるなど工夫しています。製造数は1200〜1500個程ですが、そのうち40個弱は「あさやけベーカリー」でパンと共に作って頂いています。加えてラスクや東池袋のワーカーズコープより手作りおにぎりを頂くことも多く、この場を借りて御礼申し上げます。

21時に出発、タクシーにおにぎり等を積み込み、池袋駅前公園へ向かいます。人によつて握る強さが違うために、「ラップを取る前からおにぎりが崩れている」、あるいは「歯が無いから固過ぎるのは食べ辛い」など苦情が来ることがあり、いかにムラを小さくできるかが課題です。

★夜回り ※イメージ



毎週水曜日21時半に、池袋駅前公園にて、並んだ方にチラシやおにぎりを配り、その後4コース(いけふくろう、有楽町線、西口、東口)に分かれて駅地下や路上、公園で寝ている方を訪ねて回り、路上生活者等からの相談には、内容に応じ専門スタッフが対応します。昨年度は合計114件の個別対応を行いました。夜回り1回当たりの平均は2.11件でした。

*個別対応の内訳はこのページ最後の件数表をご覧ください。

★ボランティア

今年1月より夜回りの参加条件を「申し込みすれば誰でも新規参加可能」から「事前に炊き出しとボランティアセミナーに参加された方」に変えました。そのため、参加人数が昨年(4〜12月)

平均2.6、4(うち新規3、6)から今年(1〜3月)平均1.8、3(うち新規0、6)と減少し、適正な人数になりました。

★コース別現状解説

※各コースの引率経験者にアンケートを取りました

- ①…昨年度の概況
- ②…夜回りで心がけていること
- ③…現在の問題・課題、要望等

●いけふくろうコース
①特に駅地下で何人か固まっている所がある。
②体調のこと等話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。

③相談を断る人が多い、かなり悪化してから相談に来る。
●有楽町線コース
①他コースより圧倒的に新規路上生活者が多い。

②新規の方は見分けが難しいが見落とさないようにしている。
③生活相談スタッフが常に同行してほしい。

●西口コース

①ほとんどが就寝中か寝床のみの状態。

②「ありがとう」と言ってもらえる信頼関係作り。

③ボランティアの最低配置人数を決めておくとういのは。

●東口コース

①大半は長期路上生活の方。生活保護等の支援拒否も多い。

②他コースよりも長距離だが効率化に努めている。

③コースを分割して余力を作り、その余力を1人当たりの対応時間増加に使いたい。

夜回り個別対応件数表

	新規	体調	支援	合計
駅前公園	0	1	3	4
いけふく	7	19	13	39
有楽町	28	13	3	44
西口	4	1	1	6
東口	12	6	3	21
合計	51	40	23	114

2016年度 全54回

注記:新規↓新規路上生活者

体調↓体調不良者

支援↓支援希望者

※数字は件数。人数ではありません

※越冬期間中の2回分を含む

(岡室恵)

「やんば、ほんど」の主 追悼 上野さん

上野さんは、長く池袋で路上生活をされていました。1年少し前に体調を崩して病院にかかったところ、肝臓にいくつかの悪性腫瘍が見つかりました。その後、以下に述べるような経緯があつて、TENOHASIとハウジングファースト東京プロジェクトのネットワークでアパートに入られ、約8か月間過ごした今年の7月15日、自宅で静かに息を引き取られました。

上野さんは少年時代から極道の世界に生きてこられました。たしかに、と頷ける迫力がある一方、「いつも困っている人に飯を食べさせて、自分は食べなかつた」と皆が口を揃えるような、シャイな優しさが感じられる人でした。

上野さんがこの世に生きて証しとして記録を残そうと思い、葬儀の席に集まつた皆さんから話を聞いてみました。

●目を赤くした若い女性の話
ホントに優しい人。人から悪く言われるようなことは一切ない。それだけは言える。

私が18くらいの頃からの知り合い。ホントに親切にしてくれた。本当のお父さんみたいだった。お墓参り行きたい。お骨はどこに行くの？形見がほしい。

●親分筋のYさんの話。

あいつはな、高松(豊島区)の生まれだよ。父ちゃんはメッキ工場を営んでいたんだ。元軍人で、めちゃくちゃ厳しい人だったらしい。でも、地元の、頭がいいけど貧乏で上の学校に行けない子の学費を出してやったりしてた。そういう点では偉いオヤジさんだよ。あいつは「俺には一文もくれなかつた」って怒ってたけどよ(笑)。

19歳で地元の有名ヤクザの舎弟になったんだ。それから、もちろん、いろいろあつてな。何回か刑務所も行っていいよ。

でも、ホント人間はいい奴でさあ、金が入ったら、みんな若い奴におごっちゃうんだよ。そんなもつて金が無くなると「Yさん、金貸してください」ってくるんだから。一回や二回ならいいけど、しょっちゅうだから参っちゃうよな。でもいい奴だから、そのたびに千円とか5千円とかやつてた。

ウナギ公園(池袋駅前公園)で野宿してた頃は、若い奴が腹減らしてたら、あいつがうどんか何か買ってきて鍋一杯作って食わせてやるんだ。それで、自分は食わない。そんなことをしているから金が無くなる。それでまた俺の所に来るつてわけさ、参るだろ。でも、仲間や若い者のことをいつも世話している、ホントにいい奴だったよ。なあ。

●弟分のNさんの話

怒ると怖かつたですよ。やつぱりこの世界、舐められちゃいけないって言うのがありますから。舐められないように、怒る

ときはめっちゃ怒つてました。でも、根はホントに優しい人でした。

●TENOHASIソーシャルワーカー小川の話

近年は池袋駅の西口周辺で野宿されてましたね。仲間も多い方と認識していました。

2015年の年初に具合を悪くされて池袋駅のびっくりガйд下で寝ていました。出所してきて間もないとのことでした。まもなく40度の高熱が出て、トイレにも行けず「垂れ流し状態」に。

2月4日晩、夜回り班が声をかけたら「診てほしい」とおっしゃつたので、医師2人と看護師1人、ソーシャルワーカー3人が現場に駆けつけました。お腹と足の付け根が驚くくらいに腫れ上がっていました。

ご本人はそれ以前に豊島区の福祉事務所に生活保護の相談に行つたそうですが、「反社会勢力の組織員でないことをまず照



会する」と言われて―これは手
続き上仕方ないのですが―その
場で申請書を破って帰ってきて
しまったそうでした。

上野さん、病院への不信感が
強くて、「病院に行くとも何も悪
いことをしてなくても警察が来
る」って。いろんな人が説得に
かかったけれど、なかなか病院
に行かなかったです。

それから1年ほどが過ぎて、

いよいよ体調が悪くなって、生
活保護を申請して、A病院に検
査入院したところ、肝細胞癌が
進行していました。肝硬変に加
えて、悪性腫瘍が3つ肝臓に見
つかりました。おまけに食道静
脈瘤が27個もあって、これが
破裂でもしうものなら大吐血
してお陀仏です。

いったん退院して、通院治療
することになった上野さんは、

診断書を携えて福祉事務所向
かいました。アパートで静かに
残りの人生を過ごせたら。そう
思っていたそうです。でも、そ
んな上野さんに提供されたのは、
1フロアに2段ベッドが1ダ
スも並ぶ宿泊所・B寮でした。
どうにも納得が行かず、上野さ
んは福祉事務所の指示にはした
がわず、病身で再び野宿生活を
始めました。私が直接に上野さ
んの支援に関わるようになった
のはこの頃です。上野さんの代
わりに福祉事務所へ相談に行く
と、生活保護はすでに失踪廃止
となっていました。「生活保護
はいつでもまた申請できるけれ
ど、戻れば宿泊所はB寮です
よ」。にべもない返事でした。
そうこうするうちに、上野さん
は駅構内で転倒して、C病院に
救急搬送されて入院。3週間の
後に退院したものの、ほとんど
歩けないような状態で、嫌々な
がらも2段ベッドのB寮に入所。
2日後に肝臓等の治療を再開す
べく、A病院を受診してみると、
腰椎を圧迫骨折していることが判
明して、再び入院。2週間ほど
で退院して、再びB寮に入所し
て、2日後には再び転倒して、
救急搬送からA病院に再々入院。

当時は、上野さん、着替えや
身の回り品は45リットルのポ
リ袋やデパートの紙袋なんかに
詰め込んで持ち歩いていました
ので、入退院のたびに私はそれ
らを担いで都電で行ったり来た
りしました。一昔前の漫画に出
てくるコソ泥みみたいな姿だっ
たと思います。

外科的にガンをすべて取り去
ることができないのは上野さん
もよく分かっていた、「何もし
ないでください」と担当医師に
きっぱり仰っていました。それ
でも、静脈瘤のほうは急を要す
るので、つらいのを耐えて、何
度も内視鏡を飲み込んでの処置
を受けられていました。

今度退院するときは絶対アパ
ートで暮らしてもらいたい。H
FTP（ハウジングファースト
東京プロジェクト）の会議のとき
に、皆でそう話し合い、私たち
はアパート探しを始めました。
ほどなく、運良く、西巢鴨の近
くの親切的な不動産屋さんとか
さんに出会い、「つくりたい東京
ファンド」（HFTPの住宅部
門を担っているNPO）代表の
稲葉剛さんと相談して、アパ
ートを法人契約しました。上野さ
んには、事前に部屋の写真を見

でもらって、承諾を得ていました。病室で稲葉さんとアパートの賃貸契約を交わしたときは上野さんとても神秘的な表情で、半信半疑のようでした。それでも、その日以来契約書を手元から離すことは決してなかったです。2016年の11月初めのことです。

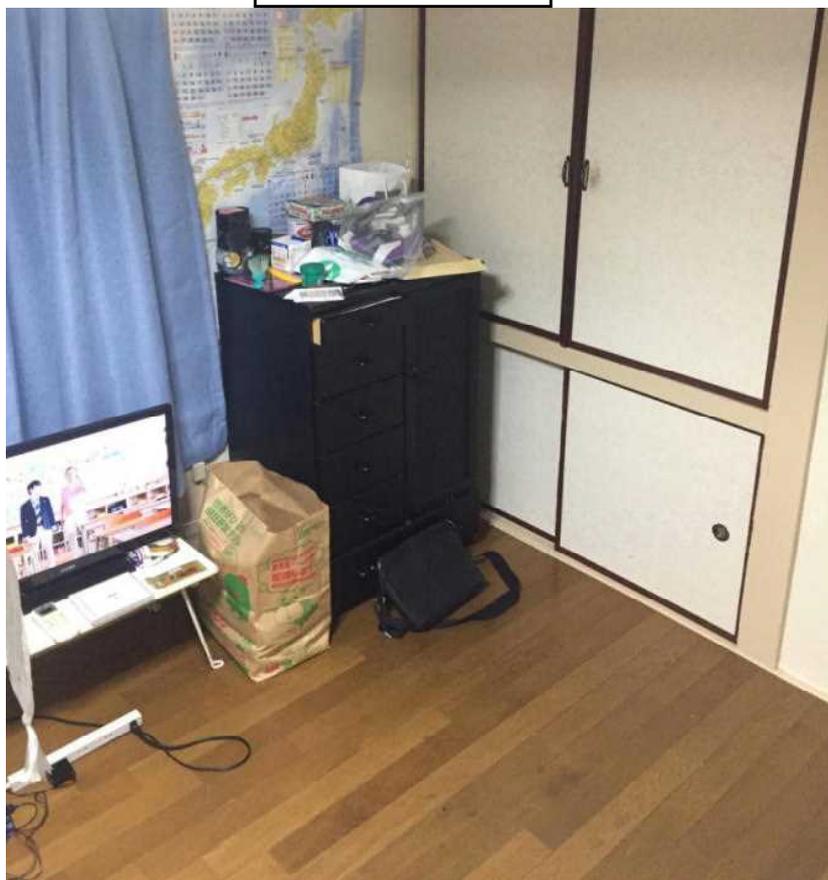
腰の回復が思わしくなく入院生活は予想外に長引きましたが、いよいよ退院の言葉が医師の口を上り、上野さんと私は、担当のケースワーカーさんに病院に來てもらって、アパート契約のことを話しました。

「とんでもない。こんな勝手なことをして、何かあったら誰が責任をもつのですか。そもそも、アパートで生活したいなんて上野さんは一度も言っていないではないですか。」ケースワーカーさんに強い口調でそう詰られました。私はそのときやや感情的になってしまいました。上野さんはいたって落ち着いていて、ただ黙っておられました。それから、2週間ほど経って、病院に上野さん宛にワーカーさんから電話が掛かってきたそうです。そして、そのときにととう上野さんは自身の思いの丈

を、電話口に向かって叫びました。後日、病室に上野さんを訪ねると、しょんぼりした様子で、「小川さん、やっちゃいました。アパートはもうダメですね。あの人の言うとおりにしますよ」、そう仰いました。私たちは高齢者向けの宿泊所とそれに隣接するデイサービス事業所を見学に行ったりしました。「ここじゃ無理ですよ」。上野さんの言葉はそれだけでした。

それから数日経った12月19日、退院手続きを済ませると、上野さんと私はすぐに西巢鴨のアパートへ行きました。こうなったら、「徹底抗戦」しかない。私たちの心は決まっています。上野さんにとって初めて実際に目にする「自分の」部屋を満喫する間もなく、アパートから福祉事務所へ直行。「それで、どうしますか」。黙したままの上野さんにケースワーカーが続けました。「いま他に行くところがないですから、アパートに行くしかないですね」。あまりに拍子抜けの展開に、狐につままれたようでした。福祉事務所から西巢鴨への帰り道、車いすを押す頬にあたる師走の風は冷たくて心地よかったのを覚えています。

「上野さんの部屋」



ます。上野さんも笑顔でした。翌日、介護保険のケアマネさん、ヘルパーさんらと顔合わせがあつて、空っぽだった部屋は、お正月を迎えるまでに、みるみるうちに、「上野さんの部屋」になっていきました。

お酒は好きでしたよね。主治医から断酒を約束させられていたのですが、そりやそうです。

よね、飲んだらいつ静脈瘤が破裂するかわからないんですから。でも上野さん言うことを聞かない。先生もそれはご存知でしたけど。

ワンカップ大関がおきまりでした。大の甘党でもあつて、「饅頭で一杯やれますよ」と言うのを大げさだと思っていたら、訪問したときにクリームパンを着にワンカップをやっている、び

つくりしたことがあります。何度かあった病院からの退院同行のさいも、福祉事務所訪問が済むと食堂に直行して、料理が出るまでに生ビールのジョッキを干して、冷酒を注文。料理はほとんど手つかずのまま、くいつと行っちゃう。まるで水を飲むみたい。あんな飲み方をする人は見たことがない。それで、いくら飲んでも顔色一つ変わらない。それで夕方までにちゃんとB寮に収まっている。

「うなどこ」こと池袋駅前公園



区役所でアパートへの住所変更の手続きを済ませた後に、お祝いしましょうということが遅い昼食を一緒にしたんです。上野さんは大きな車いすだったの

で、12月末だったけど、通りのテラスに二人で陣取りました。ちよつとしたコース料理になっていて、コンソメスープがまず出てきて、上野さん「うまい！」って。メインの肉料理もさることながら、サイドのマッシュポテトがクリームのように滑らかで、上野さんはとても感心したようでした。それで、ナイフとフォークでの食事が済んで、上野さんは紅茶を注文したのですが、一口啜ったところで目を閉じてられる。「そうだな。紅茶っていうのはこういう香りがするもんだよな。缶で飲むのとはまるで違う。こんな紅茶は何年ぶりだろう」って、10年くらい前に新宿で飲んだ紅茶の話をしてくださいました。よく晴れた冬の午後で、落ち葉がひらひらと舞い落ちて、向こうには都電が走っていて、なかなかロマンティックでした。

短期の入院を繰り返しながら、そこそこ元気だったんです。さびしくなったら、シルバーカーを押して西口公園のお仲間会いに行く。で、会うと皆におごる。帰りは疲れるからタクシー。ご本人は「行くと、お金がなくなる」とか愚痴るのですが、さびしいからやっぱ行っちゃう。うなぎ公園（池袋駅前公園の通称）のことを上野さんは「うなどこ」って呼ぶのですが、愛おしげな響きがありましたね。

●TENOHASI事務局長
清野の思い出。

私の上野さんと会ったのはほんの数回です。去年の夏、猛暑の西口公園で上野さんを病院に連れて行こうとして、小川さん、中村あずささんと一緒に探したけど、その時は見つかりませんでした。

アパートに入られてからは何回か会いました。洗濯機を届けたりして。

最後に会ったのは6月4日かな。訪問したら、元気なおばちゃんヘルパーと一緒にシーツを干していました。「シーツはこうやって干した方がいいですよ、上野さん」「いや、こっちの方

が乾く」とか論争していて、とても楽しそうでした。部屋の中也きちんと整理されていて、普通に生活されてましたよ。

さすがにその後は疲れたよう。で介護ベッドで休みながら話をしたんですが、「人生の最後に自分のアパートに住めてホントに落ち着く。集団生活の施設とかだったら絶対に無理。小川さんには感謝している」と繰り返していました。

●小川の話に戻ります。

6月中旬の受診の際に、腫瘍が大きくなってきていて、肝臓を突き破るようなことがあれば大出血するし、残っている静脈瘤が破裂すればやはり大出血するので、いつ急変してもおかしくない、もう一度入院して処置を受けてはどうかと、主治医から告げられました。当初は、何もしてもらわなくて構わないと口にしていた上野さんですが、やはり心細かったのでしょうね。「先生の言うとおりにする」。そう言って、7月1日に入院されました。ところが、入院直後から高熱が出て、数日中には肝性脳症といって毒素が分解でき

ず意識が混濁する状態となり、主治医からケアマネさんや私も電話がありました。このまま上野さんに会えなくなってしまうのではと憂慮していたところ、モルヒネ注射で痛みが和らぎ、意識も戻ったのです。「肝臓で入院してるのに、なんで心電図なんか取るのか」、そう言って、ワイヤを自分で外してしまいうくらしいにまで状態は改善しました。

しかし、病院としては、この期に及んで命の危険を伴う処置を行うことはできないということで、アパートへ帰りたいという上野さんの希望をかなえる形で、7月11日に退院の運びとなりました。ケアマネさんの迅速な手配で、訪問医師・看護師も決まり、「看取り」の体制が敷かれました。

上野さんも、そのことはよく分かっていらっしやいました。ただ、この間の急な展開には不安を感じていたのでしょう。「まいったなあ。まいちやっつたなあ」。そう呟やく上野さんの姿が忘れられません。それでも、生来の明るさから、「こんな美人の看護師さんたちが部屋に来るようになるよね、おれも男ですからね。分からないですよ。

まずいですよ」などと冗談を飛ばしていらっしやいました。

退院翌日の7月12日には、刺身とビールが飲みたいとヘルパーさんにリクエスト。ヘルパーからダメが出ると激高。驚いたヘルパーさんが看護師さんから許可をもらって、酒肴を用意して、大好きなマグロの刺身を一切れとビールをコップ半分ほど口にされたそうです。

7月14日には、長く上野さんを支援してきたTENOH ASSIの坂内さんが見舞いしました。上野さんは夜が不安らしく「泊まってほしい」と洩らしたそうです。テレビの『相棒』を見て、狂言自殺の場面に「あーっ」と大声を上げられたとも。

そして、翌7月15日の朝、看護師が訪ねたときには、すでに呼吸が弱くなっていて、まもなく静かに息を引き取られました。1時間ほど後に私もアパートに到着しましたが、とても穏やかな顔でした。知らせを聞いて駆けつけたヘルパーさんが手を握ってお別れをされました。「あたしは泣かないよ」、そう言いながら目頭を押さえていらっしやいました。

7月30日の午後、上野さんのご遺体は、江戸川区の火葬場で荼毘に付されました。元木・ムレスの人のお葬式はほんの少数の支援者が参列するだけの寂しいものであることが多いのですが、上野さんのお葬式には、仲の良かった皆さんがたくさん集まりました。

上野さん、今頃は天国でワインカップを飲み干しているでしょう。

お酒好きの上野さん。

怒ると怖い上野さん。

いつも仲間におごって自分はすっからかんの上野さん。

ご自身が望まれたように、ご自分の家で逝かれました。

見事な最期だったと思います。

(小川芳範 清野賢司)



生きてく苦勞・生きてく喜び

べてぶくろ職員 精神保健福祉士 木村純一さんインタビュー

2010年に「ハウジングファースト東京プロジェクト」(当初は「東京プロジェクト」をTENOHASI・世界の医療団と共に立ち上げたのが「べてぶくろ」です。

精神障害者の当事者研究で今や世界的に有名になった「浦河べてるの家」の池袋支部です。「べてる」+「池袋」だから「べてぶくろ」。

木村さんはべてぶくろの責任者で3年目の職員です。今日は、木村さんがどういう経緯でここに来て、何をしているのか、べてぶくろにどんな人が集まり、どんなことを考えているのかを解き明かしていきたいと思えます。

出身は札幌です。

小・中と野球をやっていてずっとキャプテンでした。

小学校の時には札幌市選抜で姉妹都市のポートランドに行ったんですよ。まあ、お金払えば誰でも行けたんですが。

野球は高校でも？

いや、1年もたずに退学しま

した。素行がよいほうではなかったの。

野球部のキャプテンだったのに？ 札幌の不良って何をするんですか。暴走族？ケンカ？

僕は身体も小さいし根性もあるわけじゃないからケンカとかではなくて、こそこそいんなことをしてました。高校も名前書いたら受かるような底辺校で結局、1年生の冬に高校を辞めました。父親は「高校は遊べんだから続けろ。やめたら仕事しなくちやいけないんだから」って言って変な理由で反対しましたけど。

それからは友達のお父さんのところで内装の仕事を21歳までやっていました。夜中ずっと遊び回っていたけれど、どんな眠たい顔をしてても仕事は休んだことがなかったの、親は文句を言いませんでした。

それがどうして「べてる」に？

内装の仕事は好きだったんですが、19歳になって「一生これをやり続けたら自分の選択がどこにもない」と思ったんです。

沖繩に一人で傷心旅行に行って、それまでの人生を振り返って、自分なりに深く考えました。

そして「自分の人生ちゃんと行きたい」「今の仕事を辞めて大学に入ろう」と決めました。帰ってから社長に「1年後にやめます」・車のローンが残ってたんで・それを払い終わって21歳で予備校に入りました。大検を半年で取りました。大検はそんなに難しくなかったです。残り半年で受験勉強をしましたが、こっちはすごく苦勞しましたね。

大学に行って何をしようと思っただけですか？

介護です。母方のおばさんが脳梗塞で身体も言葉も不自由な障害者だったんです。小さい頃からそのおばさんがすごく好きで、そういう人のために働く仕事が出来たらいいなと。

介護より内装の方が金になるでしょ？どうしてわざわざ介護を？

さっき言った19の時、「自分の選択で生きていこう」と思



ったんです。

その時考えた事が三つあって、一つは「自分の生まれ育った家のような、いつも笑っている仲のいい幸せな家族を保ちたい」ということ。

一つが「やりがいのある仕事をしたい」ということ。

最後は「生活していくための最低限の収入があること」。

介護は給料が低いとは知っていたんですけど、お金は生活できるだけあればいいと。その思いが強かったのです。

そして、北海道医療大学で「浦

河べてるの家」の向谷地生良（むかいやちいくよし）さんに出会ったんですよね。大学はどうやって選んだんですか？

予備校時代の彼女から、社会福祉士という資格があると聞いて、単なる介護よりも面白そうだと思うって医療大を受けました。で、大学で出会った彼女が「ボランティアネットワーク」というサークルに入っていて、とりあえず彼女のご機嫌取りで入ったんです（笑）。ボランティアっていうのは最初はむずかゆかったんですよね。前の職場は汚い

言葉が飛び交っていて、それでも仲良かったんです。ところがここは優しい言葉ばかりが飛び交っていて、本気かオマエ？っていう気持ちでした。それがだんだん楽しくなっただけで、ぷりはまりました。

どんな活動をしたんですか？

「ゆうゆう」という。知的障がいの子どもたちの支援をしている有名な社会福祉法人があって、そのボランティアや福祉祭りの手伝いかオーブンカレッジとか。企画運営が面白かったんです。学校祭で出店したときも、どうしたら一番儲かるようにするかとか考えるのが楽しくて。東日本大震災の時は募金活動をして、5月に石巻に入りました。魚が腐ってもものすごい臭いで、船はまだそこいらに転がっていました。

向谷地生良さんは最初どんな印象でしたか？

そんな有名な先生とは知らなかったんで、最初はただ話の面白い人だと思っていませんでした。でも、姉が依存症で苦労していることを話したら訪問してくれたりクリニクで当事者研究をしてくれました。

それからべてるを訪れて祭りを手伝ったり、サークルのみんなでワークキャンプに行ったりするようになりました。

べてるの人は話していて面白かったんです。しゃべっていて

も笑いが絶えない。実習もべてるでやって、つながりが濃くなりました。「働くならここで」と思っています。

親御さんは賛成してくれましたか？

いや、親は「病院で働け」って言うてました。やはり、安定度と給料が違うっていうイメージですから。でも、生良さんの話を聞くと病院で出来ることと地域で出来ることで圧倒的な差があったので、べてるしか頭がありませんでした。

2013年の春に大学を卒業して浦河べてるの家に就職しました。最初は全部のセクションを回ってべてるの雰囲気や事業を学ぶんです。就労支援B型事業所、生活介護、グループホーム・・・。それからSST（ソーシャルスキルトレーニング）、当事者研究、住居ミーティングなどのプログラム。それから、町の人と仲良くなって、ホテルのベッドメイキングや馬小屋の清掃・イチゴ農家の手伝いなどの仕事を開拓する担当になりました。



べてるで働くってどんな感じですか？

べてるの家の人は統合失調症が多いから、時には爆発して暴れたり、トラブルが起きたりもします。でも、「なんかあっても大丈夫」な感じなんです。みんな機嫌が良いんです。働いている僕らも変な危機感がなくのびのび働きました。なんでだろう・・・。当事者研究の理念が技法ではなくて自分の姿勢に

なっているんです。ウーツとかなって爆発しても職員に対して「お前ら何とかしろよ」「お前のせいだろ」とか食ってかかる人はいませんでした。自分自身で困っていても、自分自身で落ちるけるんです。一人一人がしっかりしていました。だからとても居心地がいいんです。

普通イヤな利用者や同僚や上司が居るもんだですけど・・・

居たかもしれません（笑）話しづらい先輩や利用者。池袋だったらそんな人が1人いたらかなり困ると思うけど、べてるではそういう感覚はありませんでした。何かあって当たり前という安心感。場の力があるんです。今考えるとあの場を創るのに苦労があったんだろうなと思いますね。

向谷地さんの本を読むと、今の苦労も大切なのかなと思えます。

そして3年目に池袋に来たんですね。

ある日、みんなで鍋をつついていた時に向谷地宣明さん（向

谷地生良さんのご子息）から「木村君、東京で働かないか」って声がかかりました。僕も一回は北海道の外で働いてみたいと思っていたので「いいですよ」って返事したんですね。

べてぶくろがどんなところかは知っていたんですか？

存在は知っていたんですが、何やっているかはよく知らなかったんです。

路上生活者支援だったことか？

はい。浦河と同じで、単純にみんなでわいわいやってるんだと思っていました（笑）。それ以前に東京に来たことはあるんですけど、「ここが日本の中心か」って感激し、中村あずささんに会って「東京にはこんなきれいな人が居るのか」ってびっくりしてただけなんです（笑）。

そして2015年4月に北海道の浦河べてるの家から、池袋の「べてぶくろ」にきたわけですね。まだ2年半ですか。木村さんってなんだかずっと前から気がするけど（笑）。ここで、読者

にべてぶくろとはなんであるか説明してください。

まず、「コミュニケーションホームべてぶくろ」というフリースペースを運営しています。ここではべてるの家の特長である当事者研究（自分の病気や生活の苦労を話し合っ、そのメカニズムを解明する）や、SST（ソーシャルスキルトレーニング）当事者研究を思いついた新しいコミュニケーション方法を練習する）ほかにミートイングや食事会などをやってい





ます。メンバーが自主的に活動して、経費も自分たちで稼いでいるんです。

誰が参加できるんですか？

誰でもOKです。とくに、生きづらさを抱えている人がいたらぜひ来て下さい。今来ているのは障害や病気の当事者が多いんですが、べてぶくろの活動に関心がある福祉職員などもいます。もと路上生活の人も参加しています。

あとは浦河べてるの家で作った昆布や本を売る「販売活動」もあります。向谷地宣明さんや生良さんの講演会などで売っています。当事者研究の発表をすることもありません。

もう一つが精神障がいのある方のための通過型グループホーム（一人暮らしの練習をする応援付きのアパート）です。住居ミーティング・食事会・当事者研究などを利用者と一緒にやります。それと、日常的に家事のこと、お金のこと、仕事のこと

を話したり、通院の同行をしたりします。

来てみて、どうでしたか。

「大変だな」という感じですが、浦河と全然違いました。

まず、利用者の年齢層が若い。そして、浦河は統合失調の人が中心ですが、べてぶくろは統合失調症のほかにも、発達やパーソナリティや気分などさまざまな障害が中心です。さらに、浦河の人は福祉サービスに通って仕事をするので体調を整えながら工賃ももらうという生活ですが、べてぶくろはただのフリースペースで仕事ではないから通ってもお金にならない。なのに集まってくる。そこでみんな言いたいことを言い合っている。良くも悪くも。あれはなかなかで(笑)。

たしかに、べてぶくろとマカロニの作風の違いは際立っていますね。みんな話聞かぬー！

浦河の人は伝え方が上手です。何かを指摘するときに笑いながら面白おかしく言うとか。それに対してべてぶくろは丸

ごと剥き出し。あれでも関係が保っていきけるんだからすごいですよね。でも、参加者は自分の生活を営みながらなおかつ集まってあそこを維持しています。あの場に求めているものがあるっていうことです。

もう一つ私が思うのは、何か問題が起きると職員の支援が求められることです。お金のこと、人間関係のこと、家族のこと・・どれも難しい。利用者同士つながりが増えていったらいいなと。ここで初めて専門職の苦勞を味わっています。もちろん、うまくいくと楽しい。こういう仕事だから前向きに受け止められるようにしたいです。

どんな問題が一番大変ですか。

「お金の苦勞」です。生活費をギャンブルやお酒に使っちゃって生活破綻しそうになる人が居ます。何回も同じ事を繰り返す人も。でも、例えばさんは何か問題が起きる度に失踪してきたので1年と同じ場所にいたことはないのに、もう1年半もここに住んでいいです。怒りの爆発もなくなってきました。少しずつでも変わってきていると

思います。

利用者には元ホームレスの人がたくさんいますよね？

精神障がいを抱えてホームレス状態になってしまった人が、グループホームに入居したり、べてぶくろのプログラムに参加したりしています。

ホームレスになる理由はみんなさまざまで、しんどい理由がみんなありますよね。グループホームをもっと機動的に時にはシエルト的に使いたいんですが、あまりうまく行ってないのが悩みです。

では、べてぶくろが目指しているものって何ですか？

なんだろうな、選択肢の一つになつたらいいな、と思います。生きていることにしんどさを抱えている人が、べてぶくろに通うと心が軽くなるとか、べてぶくろに居ると無理なく自分らしくいられるとか。べてぶくろは「理由なくいられる場所」で、通う理由のある人はその理由を持って通って、誰もはじかれずにいられる場所であれたらいい

と思っています。

今後の抱負は？

グループホーム・フリースペースができましたが、それだけでは限界があります。次は生産活動Ⅱ仕事の場を作りたいと思っています。仕事を通じた苦労と喜びの場所を。

そして、いろいろなところと連携してトータルなサポートができるようにしたいです。

ハウジングファースト東京プロジェクトとしては、炊き出し夜回りを入り口にして、家・仕事・医療などから支えるシステムができてつつあります。そこに仕事を付け加えて、一人の人をトータルに支援できるようにしていきたいです。

そうですね。ところで東京に来て2年半ですが、あとのどのくらいいる予定ですか？

うーん・・東京は息苦しい町なので、一生ずっといるかどうかはわからないです・・結婚とかもあったので、35くらいまでには最終の就職先に居たいですね。東京か、北海道か、三

重か・・・。

*木村さんはほぼ同時期にTEHNOHASIに就職した戸口真良さん(三重県出身)と昨年7月に結婚された。

もうすぐお父さんになるし、「幸せな家族を持ちたい」という夢は実現しつつありますね。

子どもはまだ生まれてないので

まだ何も考えてません。でも、家族は持ちたかったし、子どもは好きなので大丈夫だと思えます。心の支えが増えるって感じで幸せです。いま、僕に課せられた業務は節約することだけで(笑)。

*インタビュー10日後の8月24日、長男・和誠君が無事誕生しました。おめでとうございます！



10月24日 和誠君お祝い会

はっぴいめーかー大募集

□TENOHASIの活動

- 炊き出し 毎月第2/第4土曜日 東池袋中央公園
- | | |
|---------------------|-------------|
| 鍼灸・マッサージ | 16:00～18:00 |
| 衣類配布 | 16:30～17:00 |
| 医療相談 生活相談 | 17:00～18:00 |
| ほっと友の会（お茶会・第4土曜日のみ） | 17:00～18:00 |
| 配食 | 18:00～18:30 |
- おにぎりと夜回り 毎週水曜日
- | | | |
|----------------|--------|--------|
| おにぎり配布と医療・生活相談 | 21:30～ | 池袋駅前公園 |
| 夜回りと医療・生活相談 | 21:40～ | 池袋駅と周辺 |
- ハウジングファースト東京プロジェクト 路上脱出と安定した地域生活への移行支援
参加団体：TENOHASI・世界の医療団・べてぶくろ
訪問看護センターkazoc・あさやけベーカリー
つくろい東京ファンド・SWOC/ゆうりんクリニック
Habitat For Humanity

□ 活動資金のカンパをおねがいします！！

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI
振込 ゆうちょ銀行 019(せうけい)支店 当座 259686 トクヒ) テノハシ

□ 物資カンパも大募集中！！

衣類（これからは秋冬物。スーツ・女性もの不要）・靴・毛布・カミソリなど
食材（米・缶詰・レトルト食品など。） *【送り先】下の「発送元」らん参照

寄付・ボランティアのお問い合わせ
メール：TENOHASIのホームページの「お問い合わせ」から
電話：090-1611-1970(事務局長 清野賢司)

特定非営利活動法人TENOHASI

会報第36号

2017/12/1発行

□ホームページ <http://tenohasi.org/>

□メール tenohasi@yahoo.co.jp

発送元

〒177-0045

練馬区石神井台6-1-28

TENOHASI

TEL 090-1611-1970

(事務局長 清野賢司)

* 会報誌のWeb版では個人情報保護のため寄付者名簿は割愛しています。

